

GEPCC拡大へ見学会

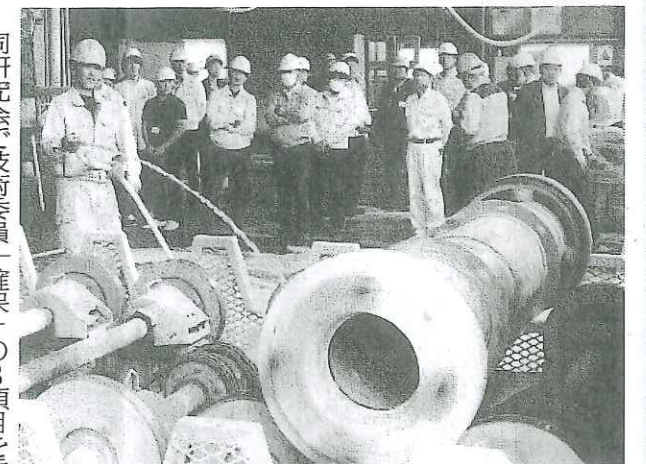
研究会 導入メリット共有



スランプ測定で性状を確認

粉末状のアルカリ刺激剤「ジオエレメント」(GE)を活用した低炭素コンクリート製品の普及を図るGEPCC(ジオエレメント・プレキャストコンクリート)研究会(会長 小澤満雄、群馬大学教授)は6月6日、滋賀県愛宕町のクリコン本社・滋賀工場で、GEを使用した製品工場の見学会を開いた。会員のコンクリート製品メーカーや大学教授など30団体・72人が4月の同会設立後、初めての活動に参加した。

同会は「GEコンクリートを多くの製品メーカーに使用してもらい、脱炭素化に向けた国の取り組みに少しでも貢献できれば」としている。冒頭あいさつした小澤会長は「百聞は一見に如かず。実際に作っている現場やモノを見ていただきたいと思います」と語り、GEがセメントに似ており、扱いやすさを感じてほしいと呼びかけた。



遠心成形の工程を見学する参加者

同研究会で技術委員を務める担当者が、クリコンがGEコンクリートの開発理念として「二酸化炭素(CO2)排出量の削減・多くの産業副産物の使用」「セメントコンクリート製造の既存設備・工程の活用」「材料の耐久性と製品性能の確保」の3項目を重視したと説明した。特に、既存設備の活用については「メーカーの製造設備投資が軽減でローリスクで導入しやすい」とGE推進の製造工程に言及し、通常のヒューム管とほぼ同条件で対応が可能とした。

さらに、粘性が強いため遠心成形に不向きだった従来のジオポリマーと異なり、GEでは遠心成形での製造が可能となつて、高温養生なども不要でヒューム管と同様の条件で、翌日の脱型もできると特徴をアピールした。CO2削減に関して、セメントコンクリート推進のCO2排出原単位が当たり410kgであるのに対して、推進管は82kgと80%削減に成功したと紹介。今後、住友大阪セメントが手掛ける人工石灰石やCO2吸収型材料の使用について検討し、カーボンネガティブ実現も視野に入れたと述べた。

新社長に別府氏 牛木氏は会長に クリオン 別府社長は6月18日に開いた定時株主総会と取締役会で牛木保司社長が退任し、後任に前太平洋セメント執行役員環境事業部長の別府通智氏を選任した。牛木氏は代表権を持たない取締役会長に就いた。

液に112日間浸漬させた結果、GEの減少率は約1.9%と耐酸性の高さを示したほか、乾燥収縮クラック低減の可能性や凍結融解への強さも説いた。参加者は、パッチャープラントでのGEPCCも分た要た定そん

再生コンでCO2固定

ACRAC 普及活動に尽力



柴谷会長



小山教授



柳橋氏

再生骨材コンクリート普及連絡協議会(ACRAC、柴谷啓一会長)は6月19日、都内で品質管理監査報告会、技術講習会を開いた。会員のほか、発注者や機械メーカーの担当者ら約50人が参加した。

報告会では、ACRAC技術部会の細野知之氏が昨年度に実施した再生骨材の品質監査の結果について、同部会の松田信広氏が再生骨材のCO2固定化に関する研究についてそれぞれ紹介。松田氏はコンクリートの炭酸化の処理方法として、湿式と乾式の2種類に大別され、その方法も処理時間やコストCO2固定量、品質改善効果

などで一長一短あることなどを報告した。技術講習会では国土交通省公共事業企画調整課の菅原利幸課長補佐が「建設副産物のリサイクルについて」、明治大学の小山明男教授が「再生骨材コンクリートに関するJIS改正の変遷と将来」、竹中工務店の柳橋邦生氏が「再生骨材コンクリートの普及に向けた技術開発と社会実装」の題でそれぞれ講演した。

小山教授は再生骨材関連のJIS規格の制定・改定の歴史を紹介しつつ、2024年改正時に積み残した課題について、JIS A5022(再生骨材コンクリートM)、同5023(再生骨材コンクリートL)の附属書Aを骨材のJISとして独立させる必要があると指摘した。小山教授が原案作成に関与している残・戻りコンに薬剤などを添加した粒状化骨材のJISについて「再生骨材コンクリート用の骨材として認めてもらいたい」と語り、再生骨材の事業者

柳橋氏は再生骨材を使用した「サーキュラコンクリート」について説明した。NEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)で8企業(竹中工務店、鹿島建設、栗本鐵工所、コトフキ技研工業、三和石産、成友興業、八洲コンクリート、吉田建材)と共同研究先の明治大学、業務委託先の竹中土木を含めた10者で、首都圏における再生骨材コンクリートの社会実装を目指していることなどを説明した。

花田克徳取締役は退任し顧問に就任した。

圧送の事故事例を解説

埼玉技能士会 過去最多300人が参加



川原会長

埼玉県圧送技能士会(川原崇嘉会長)は6月1日、川口市内の埼玉県産業技術総合センターで全圧送統一安全・技術講習会を開いた。昨年12月に埼玉県コンクリート圧送組合と合併してから初めて開催で、過去最多となる約300人が技術講習に臨んだ。開会あいさつに立った川原会長は今年が1年であることに触れ「蛇は縁起のいいものとして扱われている。白蛇は昇財天の遣いと

中型破碎の新機種

日工 実機で利便性訴求



破碎性能と機動力を両立した中型モデル

日工は6月17、20日、埼玉県吉川市の東京モバイルセンターで、独クリーマン社製の新型自走式インパクトクラッシャー「MR1001 NEO」の実機見学会を開いた。

従来機種をコンパクトにした中型モデルで、アスガラやコンガラのリサイクル処理に適した機種として、首都圏のユーザーや販売店などに導入メリットを訴求した。

新型機は、最大処理能力が1時間当たり250t。十分な性能を確保したうえで、全長は15mと従来機種より5m短く、事業所間の移動がしやすく狭い場所でも稼働できる。製品

土質改良機も披露

品の品質向上でも、破碎機のローター回転数が4段階可変で最適な粒度を実現できる。また、走行時や各種補助装置を除き、すべて電動で駆動するタイプを来春に日本で販売する予定。外部電源からの供給が可能で環境負荷低減と経済性を両立でき、環境対応を急ぐユーザーが高い関

心改生c搭のが採の品と役業界はのりた